

永田町新潮流 平沢勝榮

# 俺がやらねば



港区(東京)は児童相談所(児相)などが入る福祉施設の開設を計画した。これに、一部住民が「地価が下がる」「南青山のブランドイメージが落ちる」などと猛反対している。これまで、地域の住

環境や生活を守る上で「迷惑施設だ」として、ゴミ焼却施設などが計画中止に追い込まれたことはある。

しかし、児相は「迷惑施設」も、街の景観を悪くするものでも全くな

反対派の主張は「所得の低い人は地域の秩序を壊すので、来ないでくれ」と聞かせる。

「こにめるのは誤った『住民意識』だけで、他者に対する配慮が、みじんも感じられない。

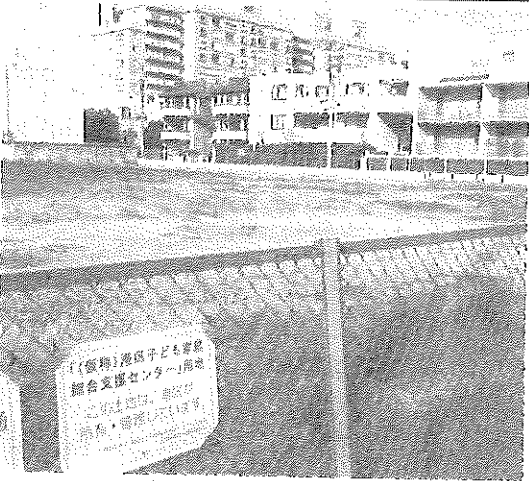
この問題について、一部マスコミの報道は極めて及び腰だ。「官に対する反対は正義」といった、誤った喧嘩にとらわれていたのだろうか。

この問題は南青山だけではない。かつて、大阪でも住民の反対で児相の設置が断念に追い込まれたことがある。

千葉県の市川市では保育園の開設が住民の反対で頓挫した。

除夜の鐘つき、盆踊りやラジオ体操などでは「うんぬん」といった苦情が時折、出るようになった。大変に世知辛い世になったのである。

## 青山の「児相問題」で世知辛い世を痛感 日本人が持つ「ぬくもり」取り戻さねば



児童相談所の建設予定地—東京都港区南青山

人」と言われるように、常に、他者への配慮を忘れない心優しい国民たといわれてきた。

実際、地域を見ても、多くの人が町内会や消防団などでボランティアとして懸命に活動してい

る。これが本来の日本人の姿だ。

こうした日本人の美しい心を取り戻し、相手を常に思いやることで「ぬくもり」のある社会を作っていくにはと思っている。(自民党衆院議員)

しかし、元来、日本人は思いやりや寛容さを持った国民のはずだ。

東日本大震災(2011年3月11日)の直後、ベトナム人記者が宮城県

の避難所で、ある少年に取材した。

少年は両親を失い、寒さと飢えに震えていた。記者がバナナをあげたところ、少年はいたく感謝しつつも、そのバナナを自分で食べることはなく、避難所内の共同食糧置き場に置いた。

少年のこの行動に、記者はいたく感激して、新

聞記事を書いた。今度は記事を読んだ読者が感動し、ただちに多額の義援金が集まったと聞く。

こういう話もある。

サッカーの2014年ワールドカップ(W杯)ブラジル大会で、日本代表は敗北した。

しかし、試合後、日本人応援団が競技場のゴミを拾い始めた。

この行動は「試合に負けたが、マナーで勝利」として、世界中で称賛を浴びた。

これまで日本人は「日本の最大の魅力は日本